

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 2 月 28 日

【評価実施概要】

事業所番号	0172001026		
法人名	有限会社 イマージュ		
事業所名	グループホーム 夢あかり		
所在地	小樽市長橋3丁目17番17号 (電 話) 0134-64-9666		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年2月23日	評価確定日	平成22年4月9日

【情報提供票より】 (平成 22年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.5

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円		その他の経費(月額)	光熱水費 25,000 円
				暖房費(10~5月) 9,000円
敷 金	有 (円) ・ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)		有りの場合 償却の有無	有 / 無
	無			
食材料費	朝食	350 円	昼食	350 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (2月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護 1	0 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	5 名	要介護 4	0 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	69 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会小樽病院、おたる内科呼吸器科、島田脳神経外科、石橋病院他
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高台の眺望のよい静かな環境に建ち、1ユニット9名と少人数であるため利用者と職員が仲良く寄り添いながら、地域の住民として安らぎの感じられる生活のなかで、家族的な暮らしをしています。ホームは、ゆとりのある使いやすい間取りとなっており、職員は理念に基づいたケアサービスに徹し、家庭生活の中での役割や一人ひとりの興味を引き出す支援が行なわれ、健康で元気に意欲をもって生活できる支援に努めています。運営推進会議へは利用者家族や既に退去された利用者家族も含め出席しており、家族の理解がいただけていることも確認ができます。法人は積極的に先頭に立ち、後志ブロックの代表としてグループホームのネットワーク作りに貢献しています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回は「重度化や終末期に向けた方針」の共有の部分で、書類の整備や職員の技術の習得が必要ということでしたが、現在は医療連携加算を採用する方針ではないため、今後法人としての方針が決まってからの検討項目になるので現時点での改善項目ではありません。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	自己評価及び外部評価のねらいや活用方法を十分に理解していますが、評価での改善課題に関し、計画書を作成して改善に向けた取り組みが確認できませんでした。今後は改善計画シート等の利用により、改善内容が確認できるような取り組みを期待します。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヵ月に1度定期的開催されホームの現況報告や課題など、広範囲な話し合いが行なわれており、既に退去された利用者の家族もメンバーになっているなど、メンバー構成も検討しながら開催されています。地域との交流が日常的に実践されるなど、運営推進会議の取り組みが活かされています。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問時は話しやすい雰囲気を作り、何でも気軽に言いやすいよう努め、家族への電話連絡の際にもできる限り聞き取るようにしています。ホーム玄関にアンケート用紙を置き、気兼ねなく意見を出しやすくしています。苦情等に対する窓口も表示し、サービスの向上を図るよう努めています。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 法人や、地元で生まれ育った管理者の努力により、地域との付き合いは良好な関係が築かれています。ホームの夏祭りは多くの住民の方々が参加しています。町内、近隣住民の方々の理解が得られ、花や野菜をいただいたり、園児の訪問で交流を図っています。地域での理解が深まっており、利用者は住民の一員として地域の中で安心して暮らしています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしてのホームの理念が、ホーム内の見やすい場所に掲示されており、「地域の中で生きがいのある生活環境で暮らしていくこと」を作りあげられています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンスや全体会議で話し合い、理念に沿ったケアが出来ているか振り返り確認しながら、理念の共有が図られています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの夏祭り等の行事に参加していただくことや、ホームからも町内会のお祭りや清掃に参加しています。園児の訪問や近隣住民の方々から野菜や花をいただくなど、地域の一員として交流しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員へ自己評価表を1冊ずつ配布し全員で記入したものを話し合い、管理者がまとめたもので完成されています。前回の外部評価結果における課題の改善は話し合っているものの記録がなく、改善項目をどのように取り組みされたかの確認ができませんでした。	○	自己評価及び外部評価のねらいや活用方法を十分に理解し、評価で見出された課題について、改善計画シート等を活用して改善に向けて具体案の検討や実践につなげる取り組みを期待します。

小樽市 グループホーム 夢あかり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎の定期開催で町内会役員、民生委員、地域住民、家族などの参加で、ホームの活動報告や現状など情報の共有化を図り、率直な意見・要望等が議事録から確認できます。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市へは毎月の行事、活動について報告しており情報の共有や意見交換を行ない連携を図りながらホームの運営に活かしています。		
理解していただき					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族に発行しているホーム便りと、利用者毎に写真付きの近況報告で担当者が手書きした生活の様子を報告しています。家族の来訪時や電話でも近況を伝えています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に話しやすい雰囲気作りに努め、意見をいただくようにしています。ホーム玄関にアンケート用紙を用意し、意見を表しやすくしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は過去1年で一人だけですが退職後もホームを訪問しており、他の職員も利用者のダメージの軽減に配慮をしています。		

小樽市 グループホーム 夢あかり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じた研修が受講できるようになっており、外部研修受講後には内容を会議で伝達しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	道グループホーム協議会の地区ブロック会長の法人として、同業者との交流を積極的に推進しており、ネットワーク作りを実行して多くのホームと協力体制を確立しています。他のホームと相互訪問や行事の参加で交流を図り、質の向上に取り組んでいます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前のホーム見学で利用者との会話や、職員と馴染みの関係が出来るように支援しています。見学ができない場合は利用者の自宅や病院を訪問し、家族より利用者の生活歴や病歴などを聞き、利用者の要望や不安に配慮しながら、安心して利用開始ができるように支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の過去の経験や得意なことで、調理の下拵えや味付け、畑仕事等で活躍できる場面が多くあります。昔からの生活の知恵を教わったり、励まされたり、労わっていただくなど、共に支え合う関係を築いています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々コミュニケーションを図りながら、利用者の望む自由な暮らしが実現できるよう配慮しています。思いが伝わりにくい場合は利用者の日々の言動や表情から思いや願いを汲み取っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は家族の意向を伺い利用者の思いや意向を取り入れたものを、毎月の会議でケアの実施状況を確認しながら、医師からの助言を参考に計画作成担当者と職員が意見を出し合い作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月毎に見直しが行なわれていますが、利用者の状態に変化が生じた場合は利用者・家族と話し合い、かかりつけ医とも相談しながら現状に即した見直しを行ない、家族に説明了解をいただいて、随時介護計画を作成しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買物や理容室への送迎等の外出支援や、利用者、家族の状況に応じた通院の同伴など、臨機応変に支援しています。近隣の喫茶店でコーヒーや好きなものを飲むなど、柔軟な支援をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の受診以外でも、利用者の馴染みの病院へ継続的に受診できるよう支援しており、利用者の受診情報は共有しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期における医療機関による体制がまだ整っていませんが、重度化した場合と終末期のあり方については、法人として今後の検討課題としています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライドやプライバシーを大切にし、デリケートな話は他の利用者に聞こえないように話すなど、尊厳に配慮した対応に努めています。個人情報保護法を理解し、個人記録や書類の管理、保管も徹底しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り利用者の要望や希望に沿うような支援をしています。散歩や買物、外出の希望などの日々の過ごし方で対応できることは利用者の望むように行なっています。		

小樽市 グループホーム 夢あかり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で野菜を収穫して食材に取り入れたり、献立は利用者の要望や外食などで楽しみがもてるようにしています。職員は利用者と一緒に会話をしながら食事をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回程度、利用者の体調や希望に合わせて入浴をしています。一番風呂が好きな利用者に対応できるように、午前と午後にお湯を入れ替えています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、畑作業、書道、手芸など利用者の生活習慣により、得意な分野や役割を見出し過去の生活歴も考慮して、利用者が楽しめる場面作りを行なっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の喫茶店、買物、日々の散歩や畑作業などで戸外へ出る事を多く取り入れています。散歩の要望は利用者の希望に沿うようになっています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯のみ防犯の為、玄関の施錠を行なっています。日中は開放し、自由で安全な暮らしを支援しています。		

小樽市 グループホーム 夢あかり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議の出席者も参加して消防署の立会いで避難訓練は実施していますが、地域住民の方々との協力体制を築くまでには至っておりません。職員は救命救急の講習を受講や再受講をして、不測の事態にそなえる必要があります。災害に備えた備蓄品は確保しています。	○	運営推進会議で話し合い、災害時における地域住民の方々との協力関係を築き、災害時の役割分担をお願いするなど、防災対策の強化をすることを期待します。法人として職員が救命救急の講習を定期的を受けられるような体制を期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を個人別記録に記載してあります。食事は適切にカロリー計算された献立を組み合わせ利用しています。利用者の体調により別メニューにすることもあり、利用者一人ひとりに適切な支援がされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は明るく広い清潔感のある居間に集い、穏やかに過ごしています。温度・湿度の管理も徹底しており、気になる臭いもなく、音・光等も気になることはありません。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ち込み、自分らしく生活しやすい居室になっています。家族の写真や使い慣れた家具を置き、安心して我家として過ごせる居室となっています。		

※ は、重点項目。